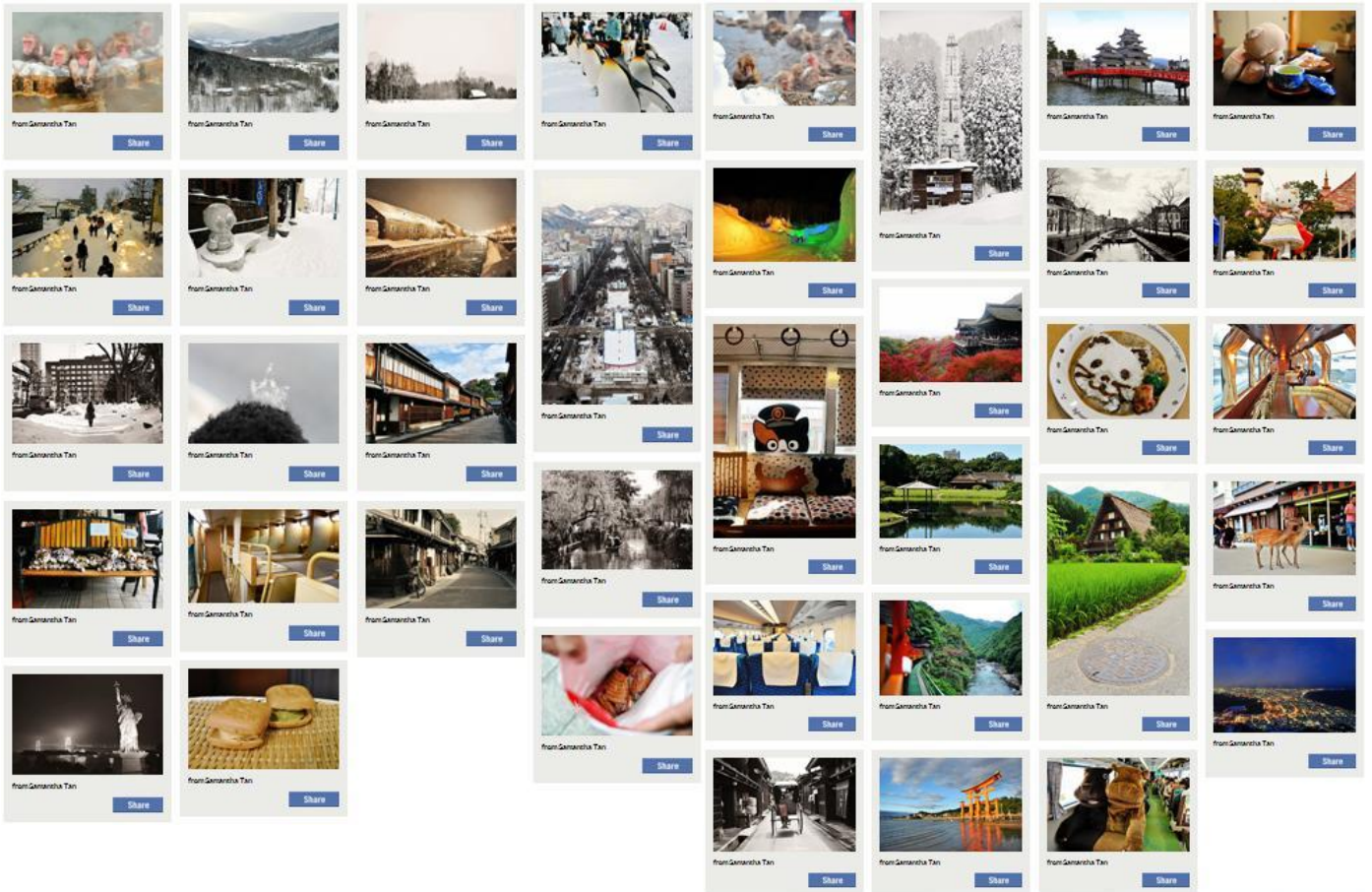


# 「Share your WOW! -Japan Photo Contest-」の受賞写真

**WOW!賞**

受賞者 : Samantha Tan (シンガポール)      投稿総数 38 枚



## Cool!賞

写真タイトル：「Amazing subway help」

受賞者：Melissa Kaita（カナダ）

投稿者コメント：

券売機の使い方が分からない人のために、何と、壁の向こうから職員が出てきて、使い方を教えてください！



## Delicious!賞

写真タイトル：「Top of Tree」

受賞者：林 韋希（Ho Su Hwei）（台湾）

投稿者コメント：

美しい景色と美味しい料理です。



## Happy!賞

写真タイトル：「ごくろうさまでした」

受賞者：Jihye Kwon（韓国）

投稿者コメント：

60年余りの間、各自の立場で懸命に生きてきた両親の引退後、北海道旅行に行ってきました。両親をもてなそうと自ら買って出た娘のたどたどしいガイドと、田舎でのつたない運転にも、両親は楽しそうでした。小樽のある旅館で撮った両親の後姿を見ていると、あの時の私の苦労は、全然苦労ではなかったと思います。お父さん、お母さん、今までご苦労様でした。



## Beautiful!賞

写真タイトル：「Torii to heaven-like」

受賞者：Phuong Nguyen（ベトナム）

投稿者コメント：

鳥居：神社への入口に設けられた大きな門のこと。この写真は、富士山の頂上で疲れた体を一晩やすめた後に撮影しました。そう、私は登山シーズンの初め、まだ頂上に雪や氷が残っている頃に富士山を征服し、荒れ狂う風と、真夜中の厳寒に耐えながら長い夜を過ごしたのです。とはいえ、日本で最も高い活火山の頂上で見る夕焼けと朝焼けは、この苦労に充分値するものでした。山と雲が層を成す、天国のように美しい風景は、早朝や夕方のはちみつ色の陽の光を受けて黄色く輝いていました。あまりの美しさに、胸が詰まったほどです。日本に長期旅行を計画しているなら、ぜひとも富士山登山にチャレンジするべきでしょう。登山シーズンや必要な装備、五合目までの交通手段（アクセス）についてはインターネットで調べられるし、登山そのものは思っているほど難しくありません。ただし、シーズン以外の登山はあきらめましょう。



## Funny!賞

写真タイトル：「富良野肚脐祭」

受賞者：馬 賽 (Ma Sai) (中国)

投稿者コメント：

富良野は、北海道の中心に位置するため、「へその町」と呼ばれています。富良野では、毎年夏に大変ユニークな「北海へそ祭り」が開催され、3000名が踊りながら練り歩きます。お腹に顔の絵を描き、子孫繁栄、成長、健康、商売繁盛、家内安全を祈願する様子が非常に面白いのです。毎年7月28日と29日の二日間、会場では終日様々なイベントが開催されますが、北海へそ祭りのメインイベントは、両日の午後6時から始まるへそ踊りの実演であり、地元の企業、団体、学校で構成されたチームが代わる代わる観光客に踊りを披露します。お腹には一人一人違った顔が描かれ、アンパンマンやピカチュウ等、アニメキャラクターの顔が踊る姿も見掛けられ、とても面白いです。



## Miracle!賞

写真タイトル：「Laughing it Off」

受賞者：Nicola Furniss (南アフリカ)

投稿者コメント：

私は宮城県北部の気仙沼市で、3年間にわたってとても充実した日々を送ったことがあります。だから、2011年10月に同地を訪問した時には、街の惨状に打ちのめされてしまいました。とはいえ、そこで出会った人々の前向きな姿勢や希望にあふれたさまには、感動し、勇気づけられました。この時、私は新しい日本語を覚えました。地域の人々の結びつきを意味する、「絆」という言葉です。宮城は「絆」に満ちていました。気仙沼滞在中のある午後、親しい友人のリョウコさんの案内で、市内の片浜という町にある、彼女の家の跡を訪れました。リョウコさんとご近所の方たちは、あの恐ろしい津波を逃れて近くの高台に上り無事でしたが、みなさん、家を失ったそうです。リョウコさんの家は美しい日本家屋で、もう何代にもわたってご家族が暮らしてきたとか。わずかばかりの家の残骸を見て、本当に悲しくてなりませんでした。ところがそんな悲しみの最中に、リョウコさんはそこに残されていた浴槽に歩み寄り、自分専用の露天風呂ができたと言葉を言って、元気に笑ったのです。そんな小さな出来事がきっかけとなって、私はほほえむことができ、また、あることに気づかされました。これほどの被害に遭ったけれど、友人たちや東北の皆さんはきっと乗り越えられるはずだと。ただ乗り越えるだけでなく、笑顔で乗り越えるはずだと。そう気づくと、心の底から頭の下がる思いがしたものです。

